

6361-127
平成17年10月6日

各関係機関の長
各病害虫防除員 様

宮崎県病害虫防除・肥料検査センター

平成17年度病害虫発生予察特殊報第1号について
平成17年度病害虫発生予察特殊報第1号を発表したので送付します。

平成17年度病害虫発生予察特殊報第1号

平成17年10月6日
宮 崎 県

- 1 病害虫名：タバココナジラミ バイオタイプQ
Bemisia tabaci Q-biotype

注) 9月14日付け病害虫防除情報第4号において発表した「シルバーリーフコナジラミの抵抗性個体群」については、「タバココナジラミ バイオタイプQ」に訂正する。

- 2 発生作物：ピーマン、シシトウ、トマト、ミニトマト、ナス、キュウリ、メロン、
大葉、サツマイモ

3 発生確認の経過

平成15年5月、県央地区の促成ピーマン栽培ハウスにおいて、これまでピーマンで発生が認められなかったシルバーリーフコナジラミと思われる個体の多発生が確認され、いくつかのハウスではすす病の発生により早期に収穫をうち切るほどの被害が発生した。同年11月には県南地域の促成ピーマンでも発生が確認された。

平成16年11月、ピーマンから採取したコナジラミの同定を、関西大学宮武頼夫氏、久留米大学上宮健吉助教授に依頼したところ、シルバーリーフコナジラミとの形態上の差異は確認されなかった。そのため総合農試生物環境部でPCR法によるミトコンドリアDNAの比較解析を行った結果、シルバーリーフコナジラミとは異なる塩基配列パターンを持つことが判明した。

その後の調査の結果、本虫は、平成17年2月、九州沖縄農業研究センターの上田氏が日本で初めて発生を報告したタバココナジラミのバイオタイプQであることを確認した。なお、検定に用いたPCR法の手順は上田の方法に準じた。

注) シルバーリーフコナジラミは、タバココナジラミのバイオタイプBとも呼ばれていたが、1994年にタバココナジラミとは別種のシルバーリーフコナジラミと命名された。しかし現在でも本種をタバココナジラミのバイオタイプとして取り扱う研究者も多い。

4 形態

シルバーリーフコナジラミとの形態上の差異は成虫、幼虫ともに確認されておらず、形態によるシルバーリーフコナジラミとの肉眼での区別は困難である。

5 生態

1996年にスペインで初めて確認されたが、生態については不明な点が多い。

当センターで実施した試験では、シルバーリーフコナジラミとの交配は認められず、カボチャ葉の白化症状を発現させる能力は低かった（未発表）。

6 県内の発生状況および寄主植物

総合農試、当センターで行った調査では14市町で発生を確認している。

現在までに寄生が確認された植物はピーマン、シシトウ、トマト、ミニトマト、ナス、キュウリ、メロン、大葉、サツマイモである（表1）。

その他の寄主植物については調査中である。

7 薬剤感受性

総合農試で実施した薬剤感受性試験の結果から、シルバーリーフコナジラミに比べ、多くの薬剤に対して感受性が低いことが認められた。（防除情報第4号参照）

8 トマト黄化葉巻ウイルス（TYLCV）の媒介能力

独立行政法人農業・生物系特定産業技術研究機構 野菜茶業研究所において、TYLCVの媒介能力を持つことが確認されている。

9 農作物に対する影響

成幼虫の吸汁による生育障害、成幼虫の分泌物に発生するすす病による葉・果実の汚れ、光合成障害。TYLCVの媒介（トマト、ミニトマト、トルコギキョウ等）。

10 防除対策

既に県内各地に広がっていることや効果のある殺虫剤が少ないことから、以下の点に注意して防除対策を行う。現在発生を確認していない地域でも、発生に注意し、同様の防除対策を実施する。

- 1) 各薬剤の防除効果に注意し、バイオタイプQの発生が疑われる場合は、有効な薬剤を用いた防除に切り替える。
- 2) 有効な薬剤に対する抵抗性の発達を回避する観点からも同一薬剤の連用は極力行わず、より一層ローテーション散布を心がける。
また、抵抗性発達の可能性が低いポタニガード乳剤等の微生物農薬や粘着くん液剤等のコナジラミを物理的に窒息死させる薬剤を防除体系に組み込む。
- 3) 施設栽培では防虫ネットを必ず設置するとともに、光反射マルチや近紫外線カットフィルム、黄色粘着板等の物理的防除手段を利用する。
- 4) 増殖源である栽培地周辺の除草を徹底するとともに、次作の発生源とならないように、栽培終了後は必ず施設を密閉（蒸し込み）処理して、完全に死滅させてから作物を片づける。
- 5) 防除薬剤等その他の詳細については、病害虫防除・肥料検査センター、総合農試生物環境部、農業改良普及センター等関係機関に照会すること。また、農薬使用基準を遵守し、危被害防止に努める。

表1 タバコナジラミバイオタイプQ確認地点一覧

採取植物	採取市町村	バイオタイプQ確認地点数/採取地点数		備考
ピーマン	宮崎市	3	3	
	日南市	3	3	
	西都市	7	7	
	新富町	1	1	
シシトウ	佐土原町	1	1	
トマト	宮崎市	3	3	
	佐土原町	0	1	
	新富町	1	1	
	川南町	1	1	シルバーリーフコナジラミも混在。
	都農町	1	1	
ミニトマト	宮崎市	1	1	
	都農町	1	1	
ナス	西都市	2	2	
	日向市	1	1	
キュウリ	高岡町	1	1	
	国富町	2	2	
	綾町	1	1	
	南郷町	0	1	
	都農町	0	1	
	日向市	1	1	
	門川町	1	1	
メロン	佐土原町	0	1	
	川南町	1	1	
	都農町	1	1	シルバーリーフコナジラミも混在。
	小林市	1	1	シルバーリーフコナジラミも混在。
大葉	宮崎市	1	1	
サツマイモ	串間市	1	1	
雑草	宮崎市	0	1	
		37 / 42 (88.1%)		

注1) 1地点当たりの検定個体数: 2個体。

注2) 採取期間: 平成16年11月～17年2月。サツマイモ、大葉は17年8月。

《連絡先》
 病害虫防除・肥料検査センター
 松浦 明
 TEL : 0985-73-6670
 Fax : 0985-73-7499
 E-mail : byogaichu-hiryo@pref.miyazaki.lg.jp
 ホームページ : <http://www.jppn.ne.jp/miyazaki>